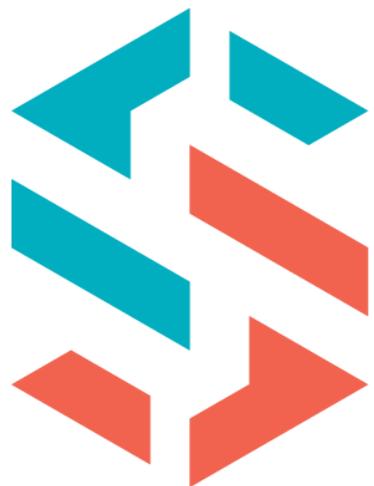


社会課題解決への挑戦とビジネススキルを磨く超実践型プログラム



# SOCIAL ACTION ACADEMY

[ ソーシャルアクションアカデミー 2022 | ソーシャルリサーチ学科 ]  
カリキュラム概要と参加のご案内

[企画・運営]



[協力]



meiji GAKUIN UNIVERSITY  
明治学院大学

明治学院大学社会学部

非営利組織とともにリアルな社会課題解決に挑戦する経験を通じて社会に対する生きた知見を手に入れ、本業の場面で発揮できるビジネススキルを磨く **超実践型アクションラーニングプログラム**です。

**「社会課題を多角的に把握し考察する力」を実践的に学ぶ機会**としてソーシャルリサーチ学科への参加をご案内します。

## 関連性の高いキーワード

#社会感度向上

#課題解決力

#SDGsの推進

#CSVの実現

#他流試合

#アンケート調査

#インタビュー調査

#多角的視点

#アドボカシー

※今年度実施のプログラムとして、社会課題解決につながるアクションを実践する「ソーシャルアクション学科」もあります。

## 参加費

**99,000円/人**  
[消費税込]

サービスグラント経験者  
および学生は**50%割引**

# ソーシャル×ビジネス のすべてが詰まった充実のプログラムです

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| ① まずは社会課題の存在を「知る」       | 入門講座                    |
| ② 現場訪問・体験を通じて「共感する」     | スタディツアー                 |
| ③ 社会調査の枠組みと具体的手法を「学ぶ」   | 集中講義・実践講座               |
| ④ 社会的意義のある調査を「企画する」     | 調査設計                    |
| ⑤ アンケートやインタビュー調査を「実践する」 | アンケート調査<br>インタビュー調査     |
| ⑥ データをもとに「分析・考察する」      | 理論化セッション                |
| ⑦ 得られた知見や考察をまとめて「発信する」  | シンポジウム                  |
| ⑧ 得られた経験や学びを「言語化する」     | 相互フィードバック<br>ふりかえりセッション |

# 社会科学の専門家と実践者による多角的視点からの講義(1/2)

プログラム前半の集中講義では、社会科学の専門家を講師に招き、来るべき社会像を整理するとともに、社会課題を可視化する調査手法や、データから考察を引き出す方法論などをお伝えします。あわせて、NPOの視点から調査研究活動を推進する意義や可能性を実践的に語ります。

## ウェルビーイングのための社会科学



### 橋本 努先生

北海道大学大学院経済学研究科教授

新しいレベルの可視化に向けての社会調査と分析を統括する。専門は社会哲学。著書に『社会科学の人間学』（勁草書房）、『自由原理 来るべき福祉国家の理念』（岩波書店）など多数。



### 芹沢 一也氏

「シノドス」編集長

アカデミック・ジャーナリズム「シノドス」編集長として、1,000人を超える社会科学者のネットワークを形成。多岐にわたる社会的テーマをめぐって専門家による自由な言論空間を切り開いています。

<https://synodos.jp/>

## 社会課題の可視化とソーシャルデザイン



### 坂口 緑先生

明治学院大学 社会学部教授

専門は、市民社会論、生涯学習論。デンマークのノンフォーマル教育機関やNPOについて調査しています。

## 社会調査の実践事例と成功のための技法



### 石原 英樹先生

明治学院大学社会学部教授

専攻は文化社会学、コミュニケーション論、地域社会論。近年の関心はLGBTへの寛容性に関する統計分析。大学では「内なる国際化」プロジェクトに所属し難民や移民の子どもへの支援を考えています。

# 社会科学の専門家と実践者による多角的視点からの講義(2/2)

## NPOだからこそ白書を作れ その意義と可能性



### 川北 秀人氏

IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表

リクルート、国際青年交流NGO代表や国会議員の政策担当秘書などを経て、94年にIIHOE設立。全国各地でNPO経営や地域づくりの講演・研修活動を精力的に行っています。

## 社会課題を読み解くヒントと調査設計のポイント



### 野沢 慎司先生

明治学院大学社会学部教授

両親の離別・死別、そして再婚後に形成される家族（ステップファミリー）をはじめ、個人の家族意識や行動、夫婦や親子の家族関係のあり方など、現代家族の様々な側面について調査研究しています。

## 社会を動かすアドボカシーの力



### 青野 慶久氏

サイボウズ株式会社 代表取締役社長

経営者のかたわら夫婦別姓を推進するアクティビストとして活躍。国民的関心を集め法改正議論の台風の目として、社会的な機運醸成を力強くけん引しています。



### 茨木 尚子先生

明治学院大学社会学部教授

障害者福祉を中心に、NPOとその支援活動を研究。当事者主体の社会福祉組織とその運営のあり方や、当事者主体のシステム実現にむけた政策提言の可能性等を最近の研究テーマとしています。

## ソーシャルセクター入門



### 松本 亜樹子氏

NPO法人 Fine ファウンダー

2004年から不妊当事者のサポートをする活動を進め、当事者の自助活動に加え、調査・政策提言等幅広い活動を展開。政府や企業の不妊治療への支援制度づくりにも大きく寄与しています。



### 嵯峨 生馬

認定NPO法人サービスグラント代表理事

2005年、ビジネスの経験・スキルを活かした社会貢献活動「プロボノ」をコーディネートする活動を展開。7,000人を超えるプロボノワーカーを集め1,200件以上のプロジェクト運営実績を有する。

# 社会課題の現場を持つ非営利組織とともに調査・分析を推進

非営利組織のリーダーによる社会課題の最新状況や現在の取組みについての講座、活動現場を訪問・体験するスタディツアーを行います。また、インタビュー調査やアンケート調査を通じて、社会課題の可視化・把握とその分析を進め、調査の成果を最終シンポジウムで発表します。

## 家庭訪問型支援の成果可視化



### 岡田 妙子さん

NPO法人バディチーム  
代表理事



親の心身の不調や経済的理由等により子育てに困難を抱える家庭への訪問型支援には、孤立を防ぎ虐待防止や親子の自尊感情を高めるなど様々な効果が見られる一方、自治体ごとの取組の違いも浮き彫りになっています。訪問型支援の成果の可視化に挑戦し、自治体間“格差”を解消するカギを探ります。

## フードバンクと生活困窮の実態



### 米山 廣明さん

一般社団法人  
全国フードバンク推進協議会 代表理事



食品ロスの削減と生活困窮者の支援を両立するフードバンク活動へのニーズは、コロナ禍においてさらに高まり続けています。全国各地に広がるフードバンクの活動状況と、その利用者の実態を把握する共通のプラットフォームとなるようなデータ収集方法について、実践的に企画・検討を行っていきます。

## 面会交流の認知拡大に向けて



### 古川 玲子さん

一般社団法人 びじっと  
総務部長



子を持つ父母の離婚は全国で12万件/年を超えています。これら離別家庭の子どもの多くが、別れて住む親と会えていません。面会交流が子どもの育ちに有益であるということの社会的認知状況の把握に向けた現状調査を企画していきます。また、調査結果をもとに認知拡大に向けた提言を検討していきます。

# 全体カリキュラムと実施日程 [1/3]

※カリキュラムは今後変更になる可能性があります

	プログラム	ゴール	担当講師
<b>8/4</b> (木) 19:30-21:30	<b>オリエンテーション + 入門講座①「ソーシャル基礎知識」</b> プログラムの詳細や進め方のポイントを説明するとともに、ソーシャルセクターの基礎についての解説を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム全体像を理解する</li> <li>・参加者どうしの顔合わせを行う</li> </ul>	嵯峨生馬 (サービスグラント) サービスグラント事務局
<b>8/6</b> (土) 10:00-16:30	<b>入門講座②「児童虐待と家庭訪問型支援の現状」</b> 社会課題の現場で活動するNPOの活動の実際の様子を聞くことで、社会課題の現状を知り、関心を高めます。同時に、団体の視点から「ソーシャルリサーチ」に対すして期待することを把握します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題に関する基礎的理解を得る</li> <li>・疑問点の洗い出しと質疑応答を通じて理解を深める</li> <li>・「ソーシャルリサーチ」への期待を把握する</li> </ul>	岡田妙子さん (NPO法人 バディチーム代表理事)
	<b>入門講座③「フードバンク活動の広がり」と課題」</b> 入門講座②と同様の構成で行います。		米山廣明さん (一般社団法人 全国フードバンク推進協議会 代表理事)
	<b>入門講座④「子ども視点で考える離婚と支援のあり方」</b> 入門講座②と同様の構成で行います。		古川玲子さん (一般社団法人 びじっと 総務部長)
<b>8/7 ~ 9/4</b>  任意参加 一部定員あり	<b>スタディツアー① 子育てパートナーの声を聞く</b> 家庭訪問型支援を行っているバディチームの「子育てパートナー」のお話を伺います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題の現場に触れて、肌で感じる</li> <li>・当事者の声を直接聞く</li> </ul>	協力：バディチーム
	<b>スタディツアー② フードバンクの活動現場を見学する</b> 東京近郊で活動するフードバンクの活動現場を訪問し、食材の管理や配達の様子などを見学・体験します。		協力：全国フードバンク推進協議会
	<b>スタディツアー③ 面会交流の意義に触れる</b> 支援担当者へのヒアリング等		協力：びじっと

※スタディツアーには一部工程において、参加できる人数に上限があります。 詳細はオリエンテーションでご説明します。

# 全体カリキュラムと実施日程 [2/3]

※カリキュラムは今後変更になる可能性があります

	プログラム	ゴール	担当講師
<b>[リアル開催]</b> <b>9/10(土)</b> 10:30-17:00  <b>【会場】</b> 明治学院大学 白金キャンパス	<b>集中講義①「ウェルビーイングのための社会科学」</b> 私たちが目指すのは福祉国家か、新自由主義か。ウェルビーイングをキー概念に、これからの社会のあり方を展望し、求められる学問や能力を提案します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学の理論的枠組みの変遷と今後の展望の中で、社会科学の可能性や期待される役割を見据える</li> </ul>	橋本努先生（北海道大学大学院経済学研究科教授） 芹沢一也氏（「シノドス」編集長）
	<b>集中講義②「社会課題の可視化とソーシャルデザイン」</b> 課題を可視化し公の議論を形成しながら、制度や仕組みを(再)構築するプロセスについて、北欧の事例等を交えながら解説します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会システムを構築・再構築するためのデザインと、それを可能にする議論のプロセスを理解する</li> </ul>	坂口緑先生（明治学院大学社会学部教授）
	<b>集中講義③「社会調査の実践事例と成功のための技法」</b> 仮説検証により有意な相関関係を見出すためのアンケート調査とは。インタビュー調査とアンケート調査をうまく繋ぐには。社会調査のさまざまなノウハウやコツを、実践事例を交えながらご紹介します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査・インタビュー調査の手法について、具体的なケースを通じて実践的に体得する</li> </ul>	石原英樹先生（明治学院大学社会学部教授）
	<b>※交流会(17:00～)</b> 講師・参加者・メンター・事務局によるささやかな交流の場をご用意しています（実施方法・内容等については当日の社会情勢に応じます）		
<b>[リアル開催]</b> <b>9/11(日)</b> 9:30-16:00  <b>【会場】</b> 明治学院大学 白金キャンパス	<b>集中講義④「NPOだからこそ白書を作れ その意義と可能性」</b> 社会課題を可視化することは、課題の存在を社会に発信し認識を高めるだけでなく、政策議論の土台を作り、パートナーや支援者のすそ野を広げることにもつながります。NPO活動における社会調査の意義を説きます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOにおける調査・研究活動の重要性を理解する。</li> </ul>	川北秀人氏（IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表）
	<b>ワーク「調査設計入門」</b> これまでの入門講座と集中講義の内容を踏まえて、社会調査の企画を行います。調査の目的の設定、仮説の構築、調査手法の検討等を通じて、調査全体の設計に挑戦します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の設計の基本的な考え方を共有する。</li> <li>・団体のニーズを踏まえて社会調査の素案を立てる。</li> </ul>	野沢慎司先生／茨木尚子先生 石原英樹先生／坂口緑先生
<b>9/14(水)</b> 19:30-21:30	<b>実践講座「社会を動かすアドボカシーの力」</b> ソーシャルアクションを実践し、社会に大きなインパクトを生み出したお二人から、社会課題へのアプローチや行動指針などについてお聞きします。 ※「ソーシャルアクション学科」との合同カリキュラムです	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会への働きかけにデータや調査をどのように活用するかを学ぶ</li> </ul>	青野慶久さん（株式会社サイボウズ） 松本亜樹子さん（Fine）
<b>9/12～</b> <b>9/30</b>	<b>クラスルーム</b> 期間中3-4回程度、アカデミー参加者どうしでアイデアを出し合ったり、ディスカッションを行う自由な場として、任意参加の意見交換の場を開催します。開催日程・頻度は、受講者と相談のうえで設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の参加者のアイデアを聞きインスピレーションを得る</li> <li>・さまざまなアイデアとその実現の選択肢を模索する</li> </ul>	SARメンター サービスグラント事務局

# 全体カリキュラムと実施日程 [3/3]

※カリキュラムは今後変更になる可能性があります

	プログラム	ゴール	担当講師
10/1(土) 9:30-12:00	<b>キックオフミーティング</b> キックオフミーティングでは、団体・講師陣・チームの間で、調査活動の目標と進め方について検討・合意を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチの目標、検証したい仮説、社会的成果等について団体およびチームメンバー内で合意する</li> </ul>	岡田妙子さん 米山弘明さん 古川玲子さん
10/1～ 1/末	<b>ソーシャルリサーチ実践期間 &amp; メンタリング</b> チームごとに企画した社会調査を、いよいよ実行に移していく期間です。ステークホルダーへの配慮を行いながら、インタビュー調査・アンケート調査等を進めていきます。期間中、プロボノ経験者が「メンター」として伴走します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計した社会調査を実行に移す</li> <li>・インタビュー調査、アンケート調査等を実施し、データを収集する</li> </ul>	SARメンター サービスグラント事務局
11/24(木) 19:30-21:30	<b>進捗共有会</b> 各チームによる社会調査の進捗状況を共有するとともに、課題点や苦心している点などについて解決に向けた方策をディスカッションします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の参加者のアイデアを聞きインスピレーションを得る</li> <li>・調査の後半に向けた検討を進める</li> </ul>	SARメンター サービスグラント事務局
1/14(土) 9:30-12:00	<b>分析・理論化セッション</b> 収集した調査データをもとに、どのように分析し、社会的な提案・提言へと昇華させるかについて、ディスカッションを行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集したデータを集計・分析する</li> <li>・調査結果をもとに考察をまとめ、提案・提言へと理論化する</li> </ul>	橋本努先生／芹沢一也氏 野沢慎司先生／茨木尚子先生 石原英樹先生／坂口緑先生
2/2(木) 19:30-22:00	<b>ソーシャルアクションタンク シンポジウム2023</b> 一般の参加者を対象に、社会調査の成果をひろく報告・発信するイベントです。各チームはこの場で自分たちが取り組んできた社会調査の結果をプレゼンし、また、考察や提言をまとめて発信します。 ※研究成果は「ソーシャルアクションタンク」ウェブサイト等に公開します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果をまとめてひろく社会に発信する</li> </ul>	岡田妙子さん／米山弘明さん／古川玲子さん 橋本努先生／芹沢一也氏 野沢慎司先生／茨木尚子先生 石原英樹先生／坂口緑先生
2/9(木) 19:30-21:30	<b>相互フィードバック &amp; ふりかえり</b> これまでの取組を振り返り、チームメンバー同士のフィードバックを行ったり、自身の気づきや今後の仕事・生活に活かせるポイントの整理を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィードバックを通じて自身の強みや課題を確認する</li> <li>・今後の社会課題との向き合い方や仕事への持ち帰りについて言語化する</li> </ul>	嵯峨生馬（サービスグラント） SARメンター サービスグラント事務局

## 参加費について

一般参加者 **99,000円** (税込)

サービスグラント参加経験者※  
学生 (大学生・高校生・専門学校生等)

~~99,000円~~ → **49,500円** (税込)

※サービスグラントが運営するプロボノプロジェクト、または「GRANT」において、1回以上のプロジェクト参加実績のある人

### 【お支払い方法について】

お支払いは銀行振り込み、または、オンライン上でのクレジットカードで行っていただくことができます。

銀行振り込みに際して、請求書の発行を希望する場合は申込時にお知らせ願います。

### 【領収証の発行について】

領収証の発行の際、宛名を企業名・個人名いずれかでお選びいただくことができます。

# ソーシャルリサーチ学科への参加によって得られる経験機会とは？

## 社会課題を科学的に見る目を養う半年間

### ■ 社会課題を構造的に可視化する機会

- 仮説を立て、課題にアプローチし、新たな発見や気づきを得る機会が豊富にあります。
- ひとりでは解決できない社会課題だからこそ、共に知恵を絞って協働し、社会的に意義のある成果を生み出す挑戦ができる場です。

### ■ 課題解決の最前線で活動する当事者と対話できる機会

- 社会課題を目前に奮闘するNPO代表やスタッフ、関係者との対話を通じて、課題に働きかけるアプローチや、活動を通じて生み出されている数々の社会的成果について、共感を持って受容し、理解する力が磨かれます。

### ■ 本業とは異なる環境、異業種メンバーの中で**自身の強みに気づく**機会

- いつもの当たり前前が通じない環境で、社会調査の企画から実行・分析までのすべてのプロセスに関わる経験は、自身の強みや可能性を発見し、本業にも還元される能力開発になります。

## 過去参加者の声 ～ 参加をオススメする対象者像とは？

アカデミー過去参加者へのヒアリングの中から、こういう人の参加がオススメという声が上がったポイントです。ひとつでも該当する人は、ぜひ参加を検討してみてください。

- 普段はヒエラルキーが強い組織構造の中で仕事をしている
- 公募人事など自ら手を挙げて挑戦する機会が少ない
- 管理職の役割上、自ら手を動かす機会を部下に譲っている
- プロジェクトの規模や役割の細分化から、自ら企画・実施・検証の機会が得にくい
- コーポレート部門に所属し、普段の仕事の中で社外との関わりがない・少ない
- ベンチャーやクリエイティブ業界、大学生などとの交流や協働の経験がない
- 仕事の中で、いま何やっているんだろうとモヤモヤしていて、現状を打開したい

## 講師からのメッセージ

政府の政策は、研究の蓄積がないまま実施されることもしばしばです(例えば郵政民営化や18歳選挙権など)。市民が社会調査に参加して政策に影響を与える活動は、いま、ますます求められています。

北海道大学大学院経済学研究科 橋本努 教授

この社会にある問題にいち早く気づき、行動しているNPOの方々とともに、学び、調べ、発信する貴重な機会に参加できることを、今から楽しみにしています。

明治学院大学社会学部 坂口 緑 教授

社会調査は対話です。調査相手に共感すること、寄り添うことが大切です。調査法のエッセンスをわかりやすく講義します。

明治学院大学社会学部 石原 英樹 教授

# 参加説明会開催のご案内 & お問い合わせ

ソーシャルアクションアカデミー2022への参加に関心をお持ちの皆さまに向けた説明会を開催しています。お気軽にご参加ください。

<b>5/21</b> (土) 10:00-11:30	<b>ソーシャルアクションアカデミー 参加説明会①</b>	<b>オンライン (Zoom)</b>
<b>6/22</b> (水) 20:00-21:30	<b>ソーシャルアクションアカデミー 参加説明会②</b>	<b>オンライン (Zoom)</b>

## お問い合わせ

**認定NPO法人 サービスグラント** (担当：小林・岡本)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-2-10

〒541-0047 大阪府中央区淡路町2-5-16 淡路町ビル8階

<https://www.servicegrant.or.jp/>

電子メールアドレス

**[SAA@servicegrant.or.jp](mailto:SAA@servicegrant.or.jp)**